

東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)/(年1回決算型)

愛称:円奏会/円奏会(年1回決算型)

資産別で見た足元の状況と今後の見通し



■ 設定・運用は



東京海上アセットマネジメント

商号等： 東京海上アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第361号

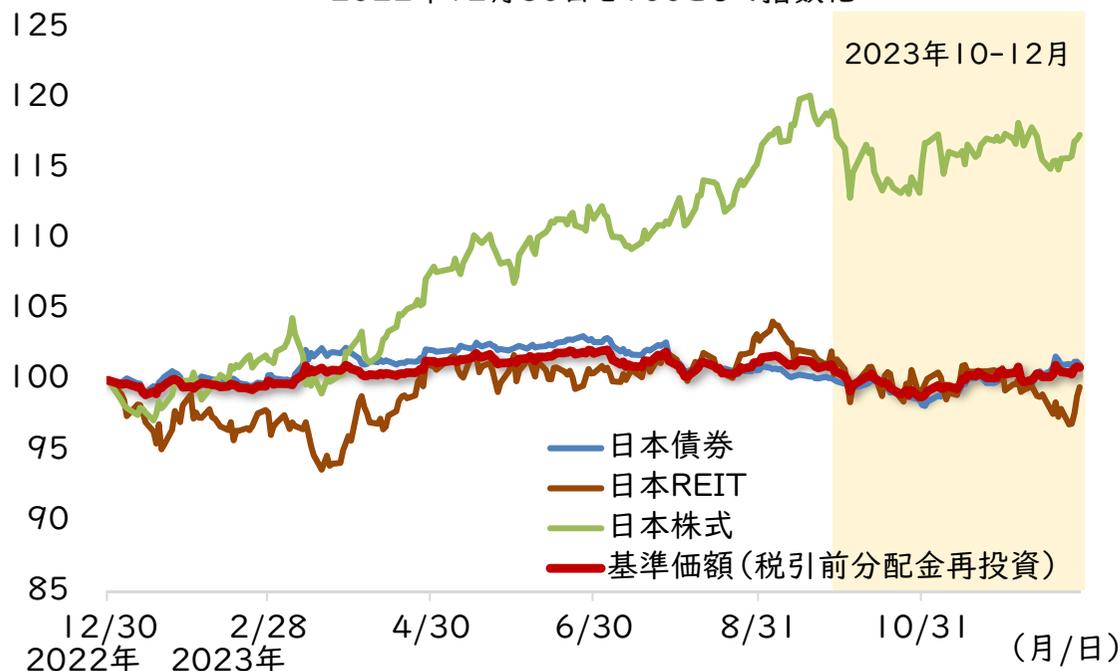
加入協会： 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

2023年の基準価額の推移（毎月決算型）

- 2023年10月～12月のパフォーマンスは、+0.30%（毎月決算型。税引前分配金再投資ベース）となりました。なお、2023年の年間パフォーマンスは+0.91%（同）となりました。
- 10月～12月の基準価額の変動要因を見てみると、日本債券は基準価額のプラス要因となりましたが、その他は基準価額のマイナス要因となりました。

基準価額と各マザーファンドの基準価額推移

期間：2022年12月30日～2023年12月29日、日次
2022年12月30日を100として指数化



各資産のマザーファンドは以下の通りです。

日本債券：東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド

日本株式：東京海上・高配当低ボラティリティ日本株マザーファンド

日本REIT：TMA日本REITマザーファンド

※基準価額、基準価額（税引前分配金再投資）は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

※上記は毎月決算型のものであり、年1回決算型のものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の動向やファンドの運用成果等を示唆・保証するものではありません。

基準価額変動要因（概算値）

期間：2023年9月29日～2023年12月29日

日付	基準価額
2023年9月29日	9,228円
2023年12月29日	9,195円 (-33円)

年初来騰落額		-33	<年初来> -156
日本債券	東京海上・円建て投資適格債券マザーファンド	76	73
日本株式	東京海上・高配当低ボラティリティ日本株マザーファンド	-3	121
日本REIT	TMA日本REITマザーファンド	-26	-25
分配金		-60	-240
信託報酬等		-20	-85

※上記は簡便法で計算しており、その正確性、完全性等を保証するものではありません。傾向を知るための目安としてご覧ください。

日本債券市場の動向

- 2023年12月末の日本10年国債利回りは0.614%と、2023年9月末(0.765%)比で低下(価格は上昇)しました。
- 2023年10月~12月の日本債券市場は、米国金利の上昇や10月下旬に日銀が長期金利の変動幅の上限を+1.0%程度としたことなどから11月上旬にかけ10年国債利回りは上昇(価格は下落)したものの、その後は、米国の金融引き締めに対する警戒感後退などにより米国金利が低下したことなどで、10年国債利回りは低下(価格は上昇)しました。
- 当四半期においては、2023年9月末と比べ国債利回りが低下したことで、日本債券は当ファンドの基準価額のプラス要因となりました。

日本10年国債利回りの推移

2022年12月30日~2023年12月29日、日次



出所:ブルームバーグ

※上記は過去の実績であり、将来の動向やファンドの運用成果等を示唆・保証するものではありません。

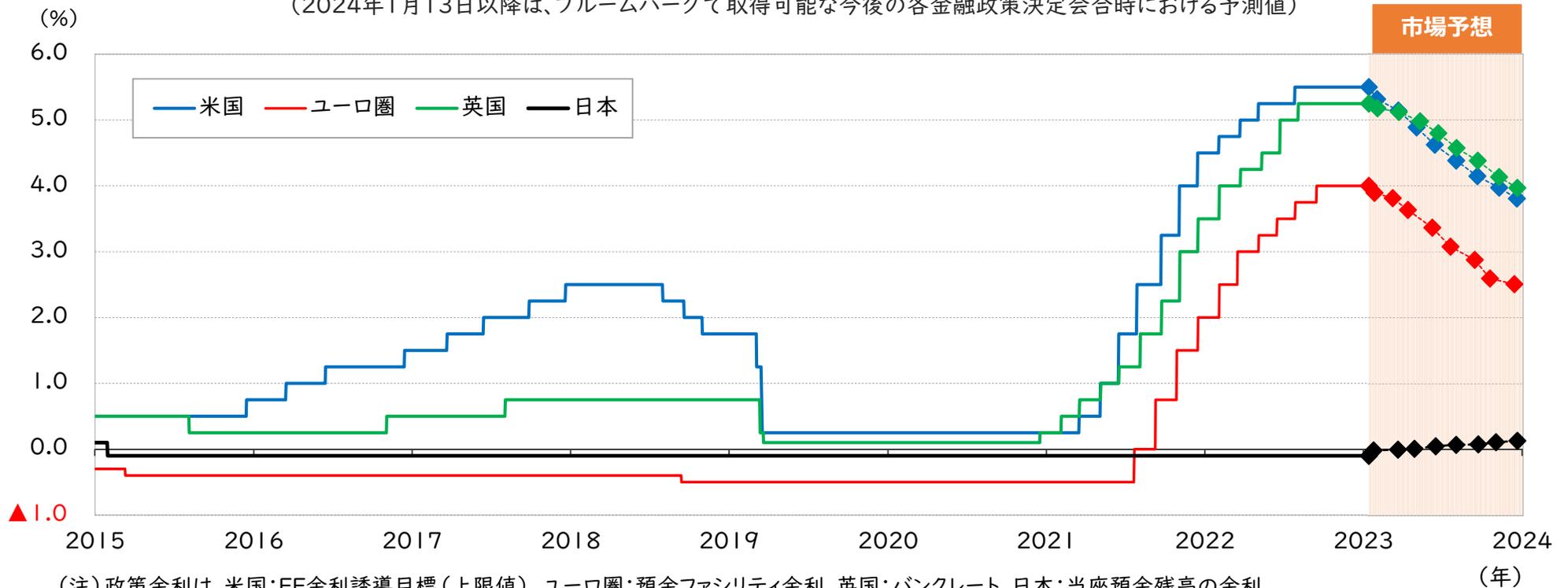
日本債券市場の見通し

- 日銀は2023年12月の金融政策決定会合で金融政策の現状維持を発表しましたが、2024年以降のマイナス金利解除に対する思惑は依然として残っており、10年国債利回りの水準は切り上がっていく状況を予想します。
- 但し、日銀の政策判断に影響を与えると考えられる日本の物価状況や主要企業の春闘集中回答結果、米国経済の状況等については注視が必要と考えます。

米国・ユーロ圏・英国・日本の政策金利と市場予想

2015年12月末～2024年12月末、日次

(2024年1月13日以降は、ブルームバーグで取得可能な今後の各金融政策決定会合時における予測値)



(注) 政策金利は、米国:FF金利誘導目標(上限値)、ユーロ圏:預金ファシリティ金利、英国:バンクレート、日本:当座預金残高の金利
 市場予想は、金利市場(ユーロ圏、日本、英国:OIS金利、米国:FF金利先物)が織り込む政策金利の水準(2024年1月12日時点)
 なお、米国の市場予想は、FF誘導目標の中央値

出所:ブルームバーグ

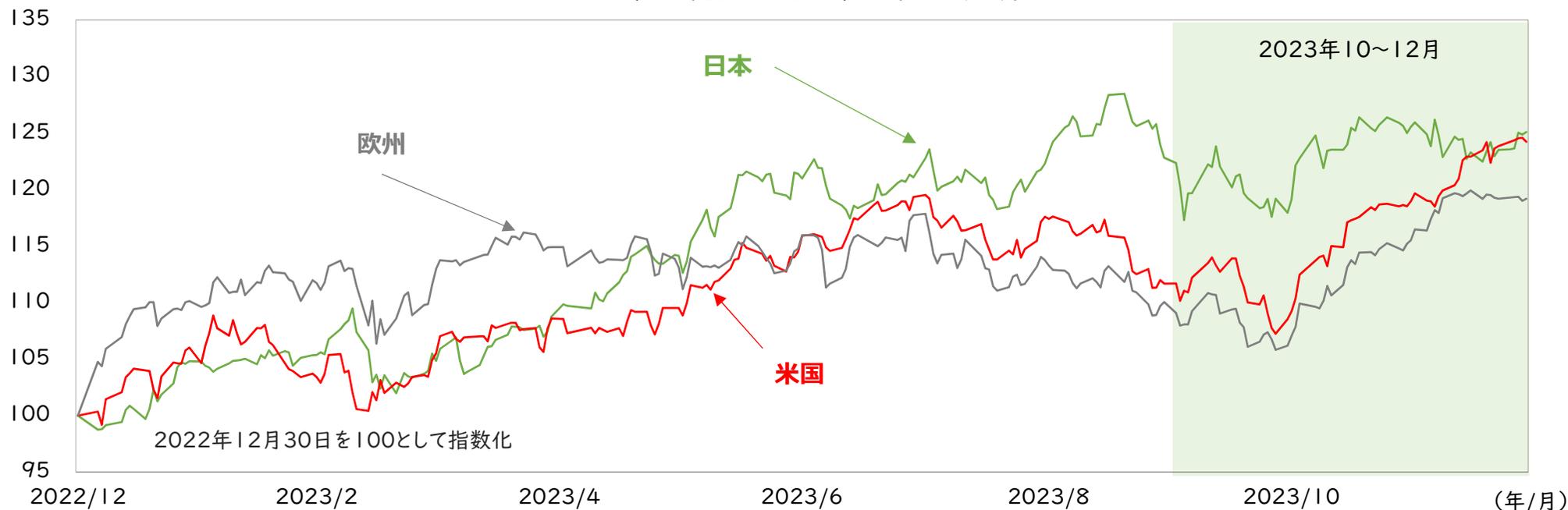
※上記は、過去の実績および将来の予想であり、将来の動向やファンドの運用成果等を示唆・保証するものではありません。
 ※上記コメントは、当資料作成時点の当社の見通しであり、将来予告なく変更する場合があります。

日本株式市場の動向

- 2023年10月～12月の国内株式市場（TOPIX（配当込み））は、米国（+11.2%）、欧州（+8.3%）市場が上昇する中、+1.9%のプラスのリターンとなりました。
- 2023年10月～12月の日本株式は、イスラエルとイスラム組織ハマスの紛争激化など中東の地政学的リスクに対する懸念が強まったほか、米国で9月の消費者物価指数が高止まりしたことや米国長期金利の上昇などが嫌気され、10月は軟調に推移しました。その後は日米の金融政策の見通しを受け長期金利が低下したことで上昇基調となりましたが、11月中旬以降は円高米ドル安が株価の重しとなりました。こうした環境下、当四半期はプラスとなりました。
- 当四半期では、2023年10月の下落が影響したことで、当四半期のファンドの基準価額にとっては、若干のマイナス要因となりました。

日米欧の株価指数の推移

2022年12月30日～2023年12月29日、日次



日本:TOPIX(円ベース)、米国:S&P500種(米ドルベース)、欧州:ユーロ・ストックス50種(ユーロベース)。すべて配当込み。

※当ページで使用している指数は、当ファンドおよび各マザーファンドのベンチマークではありません。

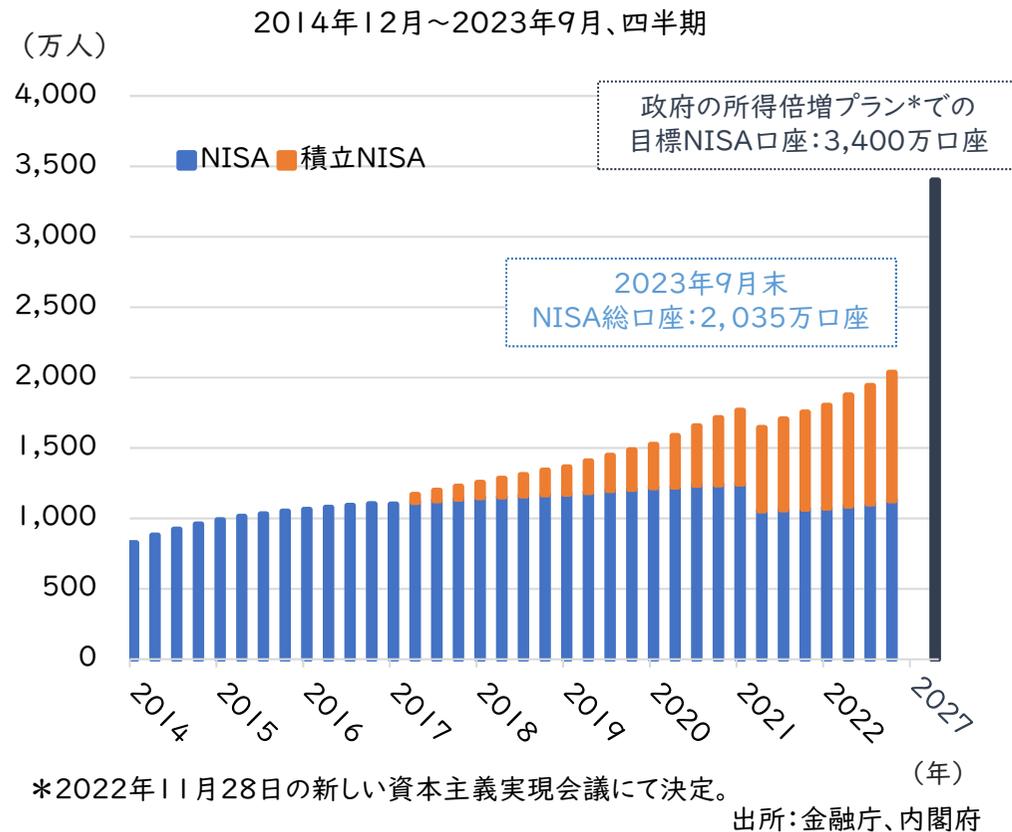
出所:ブルームバーグ

※上記は過去の実績であり、将来の動向やファンドの運用成果等を示唆・保証するものではありません。

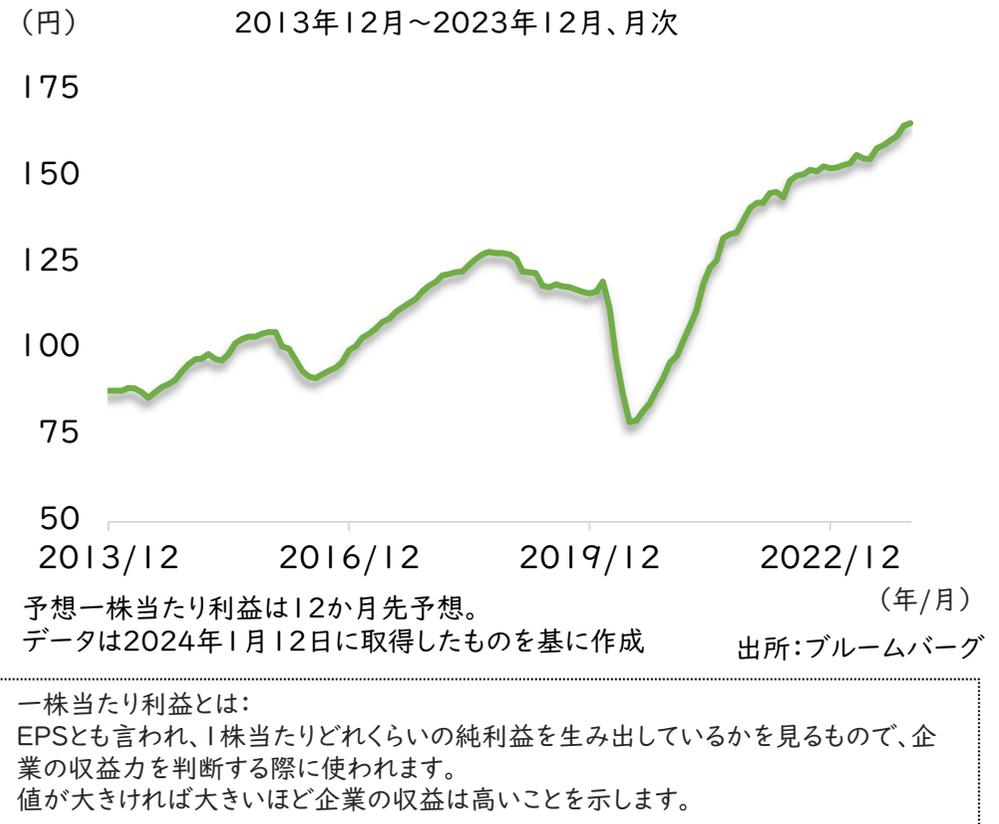
日本株式市場の見通し

- 企業業績の改善が続いていることに加え、2024年1月より開始した新しいNISAが日本株式への投資拡大や株価の上昇を後押しすることが期待されています。
- ただし、米国景気の減速、日米金融政策の方向性の変化などを受けた円高の進行、11月の米国大統領選をめぐる不透明感などについてはリスク要因と考えます。

NISA口座数の推移



TOPIXの予想一株当たり利益の推移



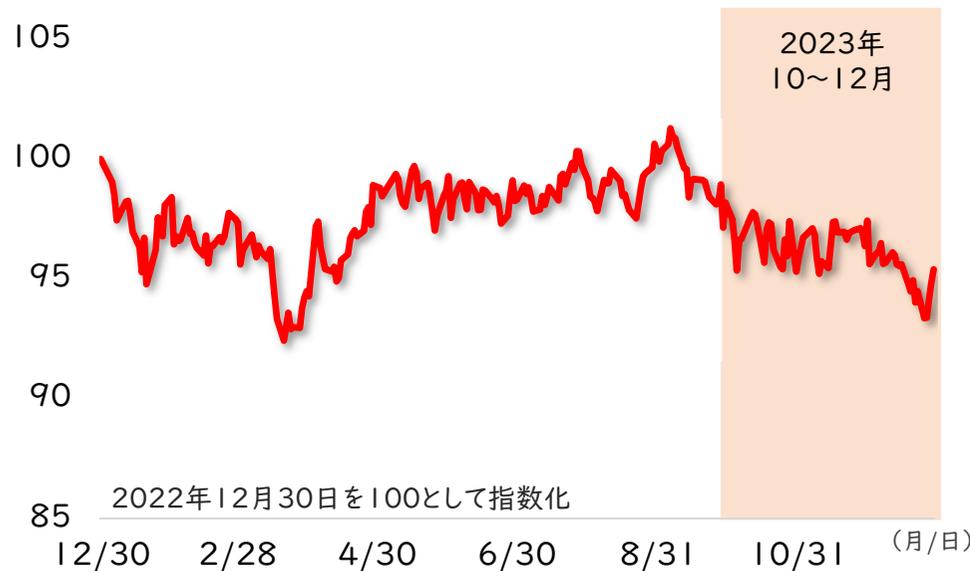
※上記は、過去の実績および将来の予想であり、将来の動向やファンドの運用成果等を示唆・保証するものではありません。
※上記コメントは、当資料作成時点の当社の見通しであり、将来予告なく変更する場合があります。

日本REIT市場の動向

- 2023年10月～12月の日本REIT（東証REIT指数）は-2.83%と下落しました。
- 2023年10月～12月の日本REITは、イスラエルとイスラム組織ハマスの紛争激化など中東の地政学的リスクに対する懸念が強まったほか、日銀のYCC（イールドカーブ・コントロール）政策の修正や日米長期金利の上昇などを受けて軟調に推移しました。11月は日米長期金利の低下を受け上昇基調となりましたが、12月に入ると日銀の金融緩和政策の変更に対する警戒感が根強く、投資家の様子見姿勢が続いたことから、下落基調となりました。こうした環境下、当四半期はマイナスとなりました。
- 日本REITと日本国債の利回り格差は3.8%と引き続き魅力的な水準にあると考えます。
- 当四半期では、日本REITはファンドの基準価額のマイナス要因となりました。

日本REIT市場の推移

2022年12月30日～2023年12月29日、日次

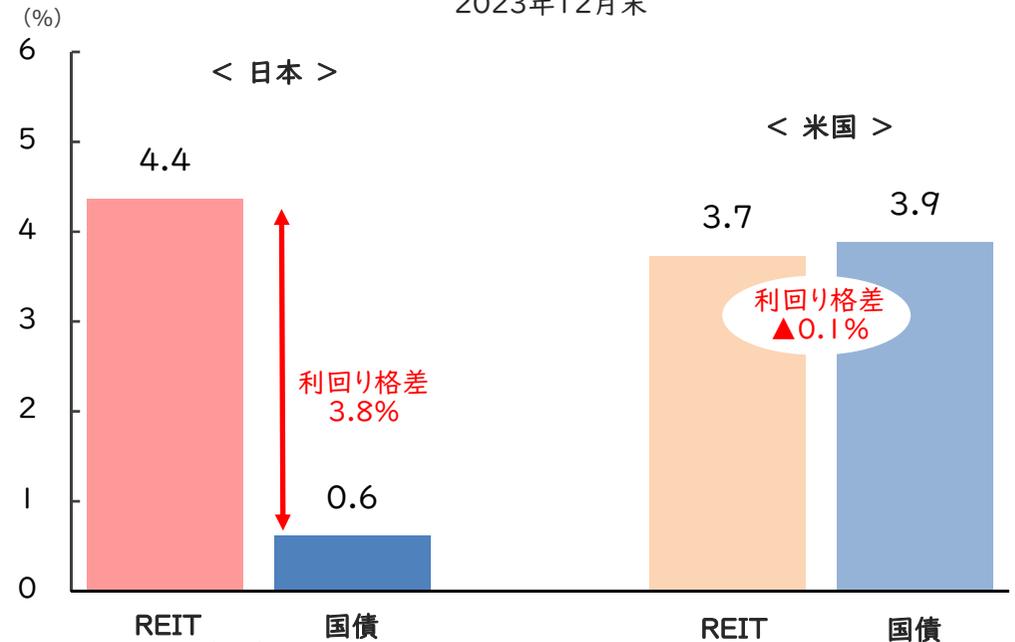


2022年 2023年
※日本REIT:東証REIT指数

出所:ブルームバーグ

日米のREITと国債の利回り差

2023年12月末



※利回りは税引前

※四捨五入のため、表記の差が利回り格差と合わない場合があります。

日本 REIT:東証REIT指数分配金利回り(実績値)、国債:日本10年国債利回り

米国 REIT:DS REITs指数 配当利回り(実績値)、国債:米国10年国債利回り

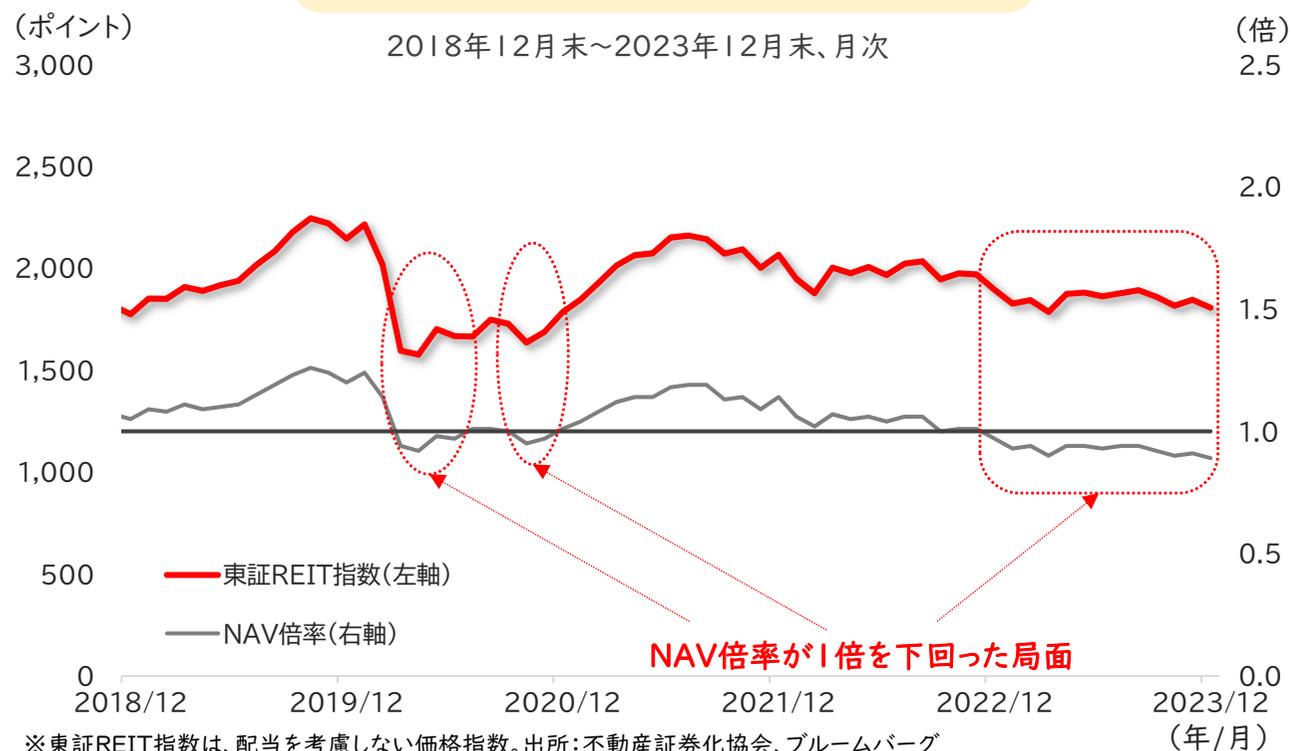
出所:ブルームバーグ

※上記は過去の実績であり、将来の動向やファンドの運用成果等を示唆・保証するものではありません。

日本REIT市場の見通し

- 日銀による金融緩和政策変更への警戒が残りながらも、安定した業績が今後も期待されることや、オフィスビル系銘柄については、テナント需要が徐々に増加しつつあり、好立地のオフィスビルは賃貸市況回復への期待も高まりやすいことから、短期的には底堅い相場展開を予想します。
- 足元で投資口価格の下落を受けて割安感が強まった物流施設セクターの銘柄や、今後も安定的な分配金が期待できる時価総額の大きい複合型セクターの銘柄などに投資家の注目が集まりやすいと想定します。
- こうした中、NAV倍率は1倍を下回っており、引き続き割安感は強いと考えます。

東証REIT指数とNAV倍率の推移



NAV倍率とは?

- REITの投資口価格の割安度を測る参考指標の一つで、REIT価格を1口当たりNAVで割った値です。
- $1口当たりNAV = \frac{\{【純資産】 + 【不動産の含み損益(鑑定評価額 - 帳簿価額)]\}}{【発行済投資口数]}$
- NAV倍率が1倍を下回る水準まで価格が下落することは、REIT各社が保有する将来の不動産価値の低下を織り込んでいる可能性、もしくは一時的な需給の悪化で実態以上に大きく売られている可能性が想定されます。

※東証REIT指数は、配当を考慮しない価格指数。出所：不動産証券化協会、ブルームバーグ

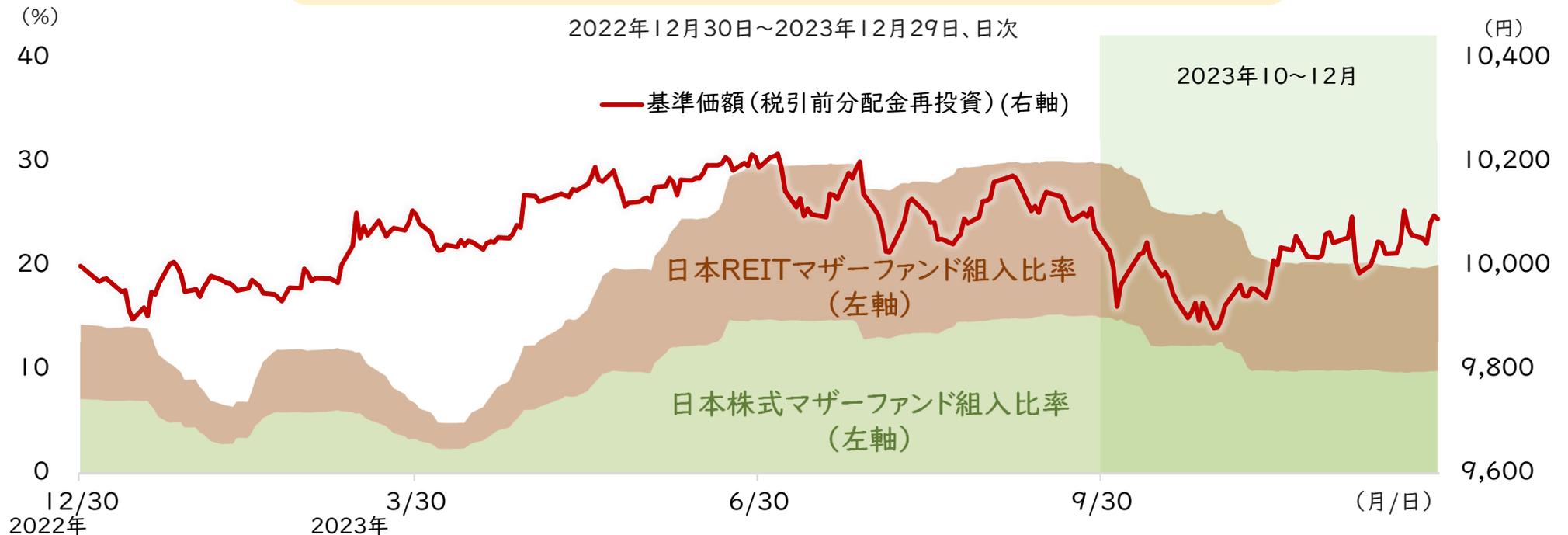
※上記は、過去の実績および将来の予想であり、将来の動向やファンドの運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※上記コメントは、当資料作成時点の当社の見通しであり、将来予告なく変更する場合があります。

当ファンドの今後の運用方針

- 基準価額の変動リスクを年率3%程度に抑制することを目指し、日本株式・REITの組入比率を機動的に変更します。
- 2023年10月～12月は日本株式、日本REITの組入比率を引き下げ、12月29日時点の日本株式、日本REITの組入比率合計は20.2%となっています。
- 当ファンドの組入比率調整は、定量評価（過去一定期間の各資産の値動きを基に運用会社独自の評価モデルにてリスク水準を計測）にて決定します。よって、運用担当者の相場観、市場見通しに左右されることなく、ルールに基づいた配分比率調整を行うことが出来る点がポイントであると考えています。

基準価額と日本株式・REITの組入比率の推移



※基準価額(税引前分配金再投資)は、1万口当たり、信託報酬控除後です。2022年12月30日を10,000円として指数化。

※日本株式・REITの組入比率は、各資産のマザーファンド評価額の当ファンドの純資産総額(一部の未払金の計上を除く)に占める割合です(以下同じ)。

各資産のマザーファンドは以下の通りです。日本株式:東京海上・高配当低ボラティリティ日本株マザーファンド、日本REIT:TMA日本REITマザーファンド

※上記は毎月決算型のものであり、年1回決算型のものではありません。

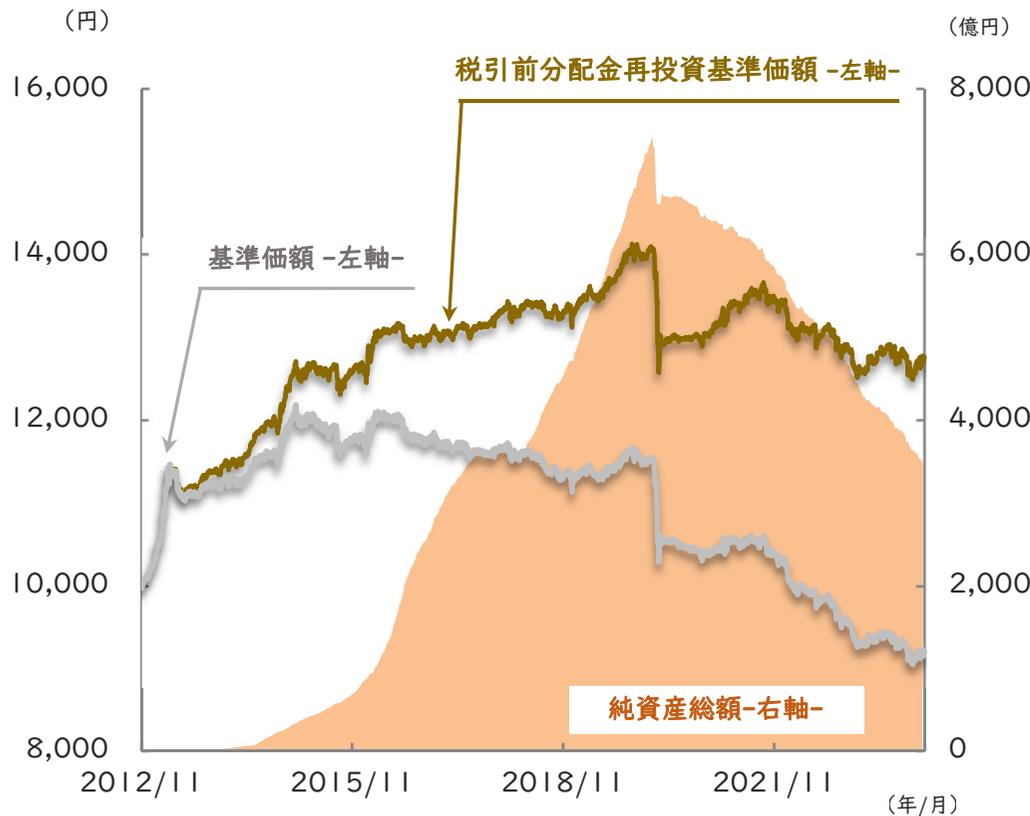
※上記グラフは、過去の実績であり、将来の動向やファンドの運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※上記コメントは、当資料作成時点の当社の見通しであり、将来予告なく変更する場合があります。

基準価額と純資産総額の推移

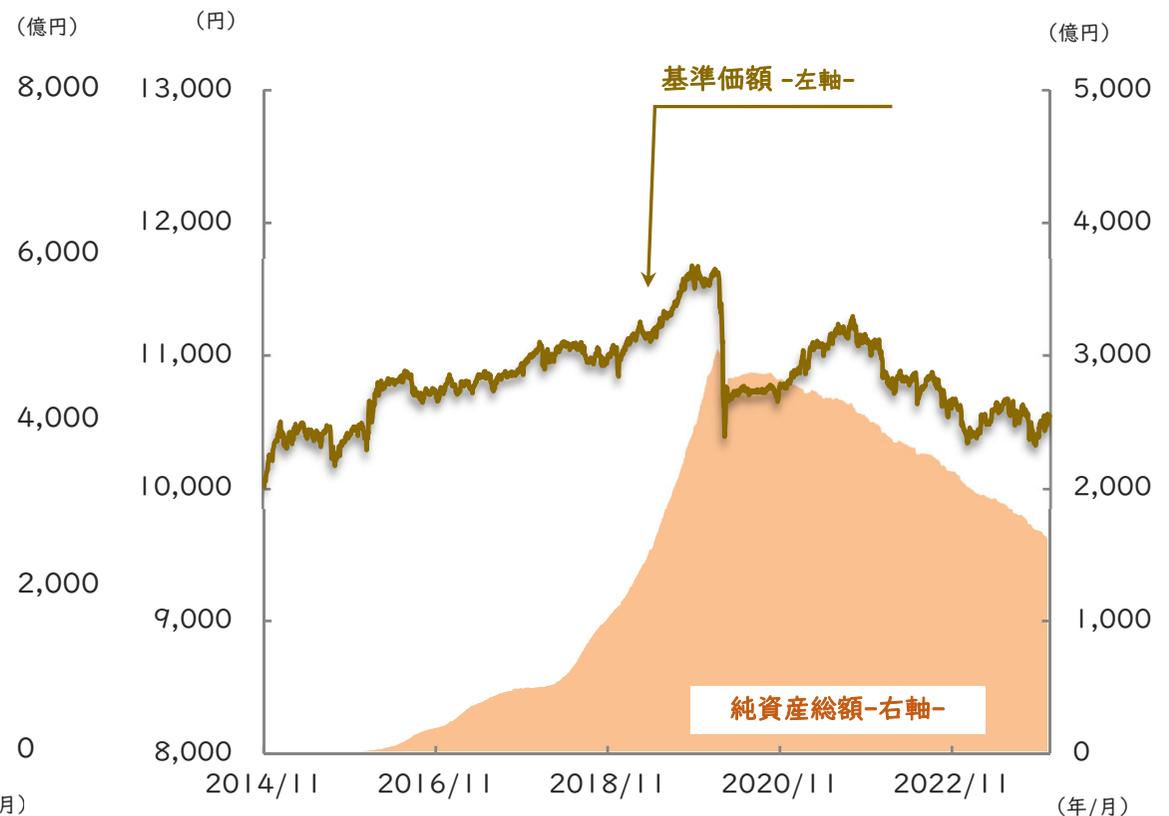
■ 毎月決算型

2012年11月9日(設定日)~2023年12月29日、日次



■ 年1回決算型

2014年11月10日(設定日)~2023年12月29日、日次



※基準価額、基準価額(税引前分配金再投資)は、1万口当たり、信託報酬控除後です。
 ※年1回決算型は、これまで分配実績がないため、基準価額(税引前分配金再投資)を表示していません。
 ※上記は過去の実績であり、将来の動向やファンドの運用成果等を示唆・保証するものではありません。

ファンドの主なリスク

- 投資する有価証券等の値動きにより基準価額は変動します。したがって、投資元本は保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用による損益は、全て投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険と異なります。
- ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定されます。

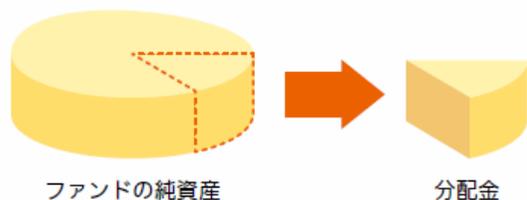
価格変動リスク	株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績・財務状況、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります（発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります）。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。REITの価格は、REITが保有する不動産の評価の下落、不動産市況に対する見通しや需給等、さまざまな要因を反映して変動します。組入REITの価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。
金利変動リスク	公社債は、一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、反対に金利が下落した場合には価格は上昇します。したがって、金利が上昇した場合、基準価額が下落する要因となります。
信用リスク	一般に、公社債や短期金融商品等の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合、またはデフォルトが予想される場合には、当該公社債等の価格は大幅に下落することになります。したがって、組入公社債等にデフォルトが生じた場合、またデフォルトが予想される場合には、基準価額が下落する要因となります。
流動性リスク	受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

⚠基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金が支払われるイメージ



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

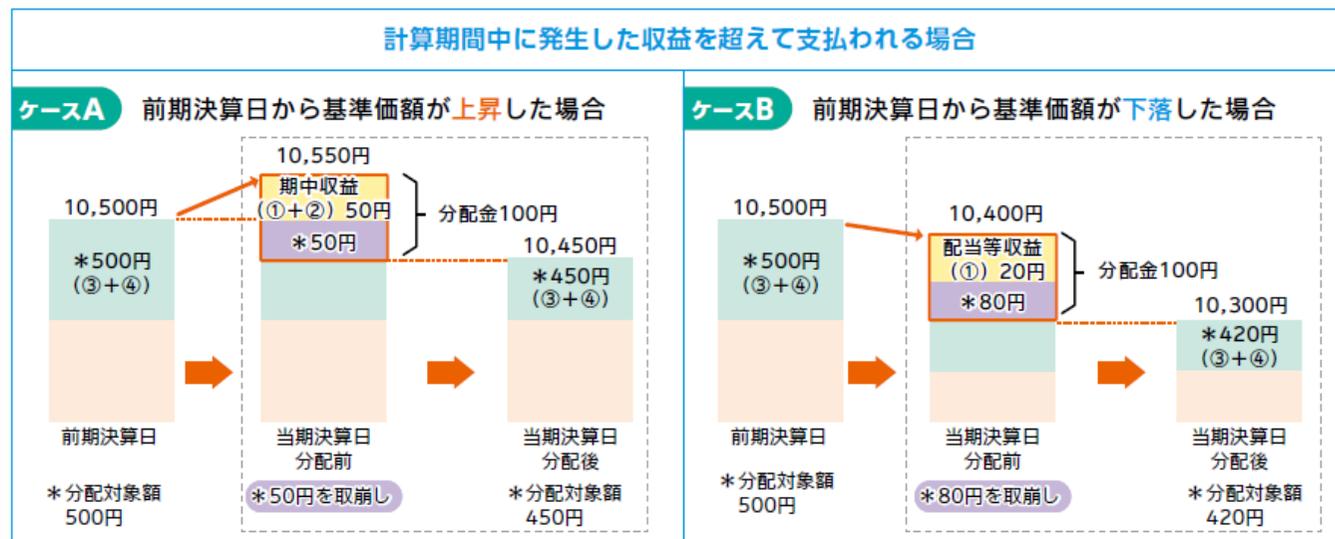
元本払戻金(特別分配金) 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
分配対象額とは、

- ①配当等収益(経費控除後)
- ②評価益を含む売買益(経費控除後)
- ③分配準備積立金
- ④収益調整金

です。



① 上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用(購入時・換金時)	
購入時手数料	購入価額に <u>1.65%(税抜1.5%)</u> の率を乗じて得た額を上限として販売会社が個別に定める額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用(保有時)	
運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に <u>年率0.924%(税抜0.84%)</u> を乗じて得た額
その他の費用・ 手数料	<p>以下の費用・手数料等がファンドから支払われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用 ファンドの純資産総額に年率0.011%(税込)をかけた額(上限年66万円)を日々計上します。支払時期については、以下の通りとします。 毎月決算型:毎計算期末または信託終了の時にファンドから支払われます。 年1回決算型:毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了の時にファンドから支払われます。 ・組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料 ・資産を外国で保管する場合にかかる費用 ・信託事務等にかかる諸費用 <p>※監査にかかる費用を除く上記の費用・手数料等は、取引等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p>

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、事前に表示することができません。

販売会社一覧

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会				円奏会（毎月）	円奏会（年1回）
				日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会		
株式会社 愛知銀行	○		東海財務局長（登金）第12号	○				○	○
株式会社 あおぞら銀行	○		関東財務局長（登金）第8号	○		○		○	○
株式会社 青森銀行	○		東北財務局長（登金）第1号	○				○	
株式会社 足利銀行	○		関東財務局長（登金）第43号	○		○		○	○
株式会社 イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	○		関東財務局長（登金）第633号	○				○	○
いちよし証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第24号	○	○			○	○
岩井コスモ証券株式会社		○	近畿財務局長（金商）第15号	○	○	○		○	○
auカブコム証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○	○	○
S M B C日興証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○	○	○
株式会社 S B I証券		○	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○	○	○
株式会社 S B I新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社 S B I証券）	○		関東財務局長（登金）第10号	○		○		○	○
株式会社 S B I新生銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	○		関東財務局長（登金）第10号	○		○		○	○
株式会社 愛媛銀行	○		四国財務局長（登金）第6号	○				○	
岡崎信用金庫	○		東海財務局長（登金）第30号	○				○	
岡三証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○	○	○
おかやま信用金庫	○		中国財務局長（登金）第19号	○				○	○
株式会社 神奈川銀行	○		関東財務局長（登金）第55号	○				○	○
株式会社 北日本銀行	○		東北財務局長（登金）第14号	○				○	○
株式会社 紀陽銀行	○		近畿財務局長（登金）第8号	○				○	
株式会社 京都銀行	○		近畿財務局長（登金）第10号	○		○		○	○
京都信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第52号	○				○	○
株式会社 きらやか銀行	○		東北財務局長（登金）第15号	○				○	
株式会社 熊本銀行	○		九州財務局長（登金）第6号	○				○	○
株式会社 群馬銀行	○		関東財務局長（登金）第46号	○		○		○	○

※岡三証券株式会社は一般社団法人日本暗号資産取引業協会に加入しています。

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会				円奏会（毎月）	円奏会（年1回）
				日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会		
株式会社 滋賀銀行	○		近畿財務局長（登金）第11号	○		○		○	
株式会社 静岡銀行	○		東海財務局長（登金）第5号	○		○			○
静銀ティールム証券株式会社		○	東海財務局長（金商）第10号	○				○	○
株式会社 七十七銀行	○		東北財務局長（登金）第5号	○		○		○	○
七十七証券株式会社		○	東北財務局長（金商）第37号	○				○	○
株式会社 清水銀行	○		東海財務局長（登金）第6号	○				○	○
株式会社 十八親和銀行	○		福岡財務支局長（登金）第3号	○				○	○
株式会社 荘内銀行	○		東北財務局長（登金）第6号	○					○
株式会社 常陽銀行	○		関東財務局長（登金）第45号	○		○		○	○
株式会社 仙台銀行	○		東北財務局長（登金）第16号	○				○	
株式会社 大光銀行	○		関東財務局長（登金）第61号	○				○	○
第四北越証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第128号	○				○	○
株式会社 大東銀行	○		東北財務局長（登金）第17号	○				○	○
株式会社 千葉銀行	○		関東財務局長（登金）第39号	○		○		○	○
株式会社 千葉興業銀行	○		関東財務局長（登金）第40号	○				○	
株式会社 中京銀行	○		東海財務局長（登金）第17号	○				○	○
株式会社 中国銀行	○		中国財務局長（登金）第2号	○		○		○	
株式会社 筑波銀行	○		関東財務局長（登金）第44号	○				○	
東海東京証券株式会社		○	東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○	○	○
株式会社 東京スター銀行	○		関東財務局長（登金）第579号	○		○		○	○
株式会社 栃木銀行	○		関東財務局長（登金）第57号	○				○	○
株式会社 鳥取銀行	○		中国財務局長（登金）第3号	○				○	
長野証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第125号	○				○	
株式会社 名古屋銀行	○		東海財務局長（登金）第19号	○					○
株式会社 南都銀行	○		近畿財務局長（登金）第15号	○				○	○
南都まほろば証券株式会社		○	近畿財務局長（金商）第25号	○				○	○
株式会社 西日本シティ銀行	○		福岡財務支局長（登金）第6号	○		○		○	○
野村証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第142号	○	○	○	○	○	○
株式会社 八十二銀行	○		関東財務局長（登金）第49号	○		○		○	○
PWM日本証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第50号	○			○	○	○

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会				円奏会（毎月）	円奏会（年1回）
				日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会		
株式会社 東日本銀行	○		関東財務局長（登金）第52号	○				○	
株式会社 百五銀行	○		東海財務局長（登金）第10号	○		○		○	
百五証券株式会社		○	東海財務局長（金商）第134号	○				○	
株式会社 百十四銀行	○		四国財務局長（登金）第5号	○		○		○	
ひろぎん証券株式会社		○	中国財務局長（金商）第20号	○				○	
株式会社 広島銀行	○		中国財務局長（登金）第5号	○		○		○	
フィデリティ証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第152号	○	○			○	
株式会社 福岡銀行	○		福岡財務支局長（登金）第7号	○		○		○	
株式会社 福岡中央銀行	○		福岡財務支局長（登金）第14号	○				○	
株式会社 福島銀行	○		東北財務局長（登金）第18号	○				○	
P a y P a y 証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第2883号	○				○	
碧海信用金庫	○		東海財務局長（登金）第66号	○				○	
株式会社 北都銀行	○		東北財務局長（登金）第10号	○				○	
株式会社 北陸銀行	○		北陸財務局長（登金）第3号	○		○		○	
株式会社 北海道銀行	○		北海道財務局長（登金）第1号	○		○		○	
松井証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第164号	○		○		○	
マネックス証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○		○	
丸三証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第167号	○				○	
株式会社 みずほ銀行	○		関東財務局長（登金）第6号	○		○		○	
株式会社 みちのく銀行	○		東北財務局長（登金）第11号	○				○	
株式会社 三菱UFJ銀行	○		関東財務局長（登金）第5号	○		○		○	
株式会社 三菱UFJ銀行 （委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社）	○		関東財務局長（登金）第5号	○		○		○	
三菱UFJ信託銀行株式会社	○		関東財務局長（登金）第33号	○	○	○		○	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第2336号	○	○	○		○	
水戸証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第181号	○	○			○	
株式会社 みなと銀行	○		近畿財務局長（登金）第22号	○		○		○	
株式会社 山形銀行	○		東北財務局長（登金）第12号	○				○	
株式会社 山梨中央銀行	○		関東財務局長（登金）第41号	○				○	
株式会社 ゆうちょ銀行	○		関東財務局長（登金）第611号	○				○	
楽天証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○		○	

取次販売会社一覧

以下は、取次登録金融機関です。（信用金庫、労働金庫の順に掲載しています。）

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会				円奏会（毎月）	円奏会（年1回）
				日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会		
尼崎信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第39号	○				○	
愛媛信用金庫	○		四国財務局長（登金）第15号					○	
大阪シティ信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第47号	○				○	
大阪信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第45号				○	○	
大牟田柳川信用金庫	○		福岡財務支局長（登金）第20号					○	
蒲郡信用金庫	○		東海財務局長（登金）第32号				○	○	
北伊勢上野信用金庫	○		東海財務局長（登金）第34号				○		
京都中央信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第53号	○				○	
京都北都信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第54号					○	
桐生信用金庫	○		関東財務局長（登金）第234号					○	
埼玉縣信用金庫	○		関東財務局長（登金）第202号	○			○	○	
さがみ信用金庫	○		関東財務局長（登金）第191号				○	○	
三条信用金庫	○		関東財務局長（登金）第244号				○	○	
芝信用金庫	○		関東財務局長（登金）第158号					○	
城北信用金庫	○		関東財務局長（登金）第147号	○			○	○	
白河信用金庫	○		東北財務局長（登金）第36号					○	
西武信用金庫	○		関東財務局長（登金）第162号	○			○	○	
関信用金庫	○		東海財務局長（登金）第45号				○	○	
玉島信用金庫	○		中国財務局長（登金）第30号				○	○	
千葉信用金庫	○		関東財務局長（登金）第208号				○	○	
栃木信用金庫	○		関東財務局長（登金）第224号					○	
西尾信用金庫	○		東海財務局長（登金）第58号	○			○		
はくさん信用金庫	○		北陸財務局長（登金）第35号				○	○	
幡多信用金庫	○		四国財務局長（登金）第24号				○	○	
浜松磐田信用金庫	○		東海財務局長（登金）第61号				○	○	

次ページに続く

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会				円奏会（毎月）	円奏会（年1回）
				日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会		
播州信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第76号	○				○	○
姫路信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第80号	○				○	○
兵庫信用金庫	○		近畿財務局長（登金）第81号	○				○	○
平塚信用金庫	○		関東財務局長（登金）第196号					○	
福島信用金庫	○		東北財務局長（登金）第50号						○
水戸信用金庫	○		関東財務局長（登金）第227号					○	
横浜信用金庫	○		関東財務局長（登金）第198号	○				○	○
沖縄県労働金庫	○		沖縄総合事務局長（登金）第8号						○
九州労働金庫	○		福岡財務支局長（登金）第39号						○
近畿労働金庫	○		近畿財務局長（登金）第90号						○
四国労働金庫	○		四国財務局長（登金）第26号						○
静岡県労働金庫	○		東海財務局長（登金）第72号						○
中央労働金庫	○		関東財務局長（登金）第259号						○
中国労働金庫	○		中国財務局長（登金）第53号						○
東海労働金庫	○		東海財務局長（登金）第70号						○
東北労働金庫	○		東北財務局長（登金）第68号						○
長野県労働金庫	○		関東財務局長（登金）第268号						○
新潟県労働金庫	○		関東財務局長（登金）第267号						○
北陸労働金庫	○		北陸財務局長（登金）第36号						○
北海道労働金庫	○		北海道財務局長（登金）第38号						○

一般的な留意事項

- ✓ 当資料は、東京海上アセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。お申込みに当たっては必ず投資信託説明書（交付目論見書）をご覧の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）は販売会社までご請求ください。
- ✓ 当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- ✓ 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に掲載された図表等の内容は、将来の運用成果や市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。
- ✓ 投資信託は、値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。
- ✓ 投資信託は金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。
- ✓ 投資信託は、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ✓ 投資信託は、預金および保険契約ではありません。また、預金保険や保険契約者保護機構の対象ではありません。
- ✓ 登録金融機関から購入した投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。

当資料で使用した市場指数について

- TOPIXの指数値およびTOPIXにかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下、JPXといいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等TOPIXに関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXにかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。ファンドは、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。
- 「東証REIT指数」は、株式会社JPX総研が算出する株価指数であり、東証市場に上場するREIT全銘柄を対象とした浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。東証REIT指数の指数値および東証REIT指数にかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下、JPXといいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等東証REIT指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証REIT指数にかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証REIT指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。ファンドは、JPXにより提供、保証または販売されるものではなく、ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

【お問い合わせ先】東京海上アセットマネジメント株式会社

○ホームページアドレス <https://www.tokiomarineam.co.jp/>

○電話番号 0120-712-016（受付時間：営業日の9：00～17：00）

TMAMQuality

お客様の期待の一步先へ

【お問い合わせ先】東京海上アセットマネジメント株式会社

○ホームページアドレス <https://www.tokiomarineam.co.jp/>

○電話番号 0120-712-016 (受付時間：営業日の9：00～17：00)